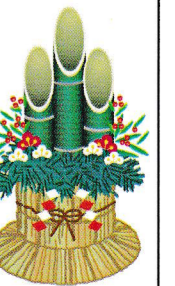


たしげな新聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あきる野市小川101
電話 042-558-2663

謹賀新年

水谷山宝清寺



慶讃事業 奉納者芳名

(順不同 敬称略)

前号でご案内しました、日蓮大聖人の降誕八〇〇年慶讃事業(青少年健全育成に向けた活動の促進等)の浄財奉納者の皆様を掲載させていただきます。

- 森川 英子
 - 飯田 真之
 - 石田 さつき
 - 斎藤 尚彦
 - 佐伯 慶子
 - 佐藤 敏男
 - 川崎 米子
- (十一月末日現在)

平成三十年戊 あけましておめでとうございませす。

平成三十年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。新しい年が皆様にとって幸多い年になることを祈念しております。

「汝信仰の寸心を改めて速やかに実乗の一善に着せよ。然らば即ち三界は皆仏国なり、仏国其れ衰えんや。国に衰微無く、土に破壊無くんば身は安全にして、心は禅定ならん。」
この文は、一六〇〇年(文忠元年)日蓮大聖人が三十九歳の時に、当時の最高権力者であった北条時頼に提出した文書『立正安国論』の一節です。

「この文は、一六〇〇年(文忠元年)日蓮大聖人が三十九歳の時に、当時の最高権力者であった北条時頼に提出した文書『立正安国論』の一節です。この文は、一六〇〇年(文忠元年)日蓮大聖人が三十九歳の時に、当時の最高権力者であった北条時頼に提出した文書『立正安国論』の一節です。

日蓮聖人の御遺文

「正月は一日は日のはじめ、月の始め、年のはじめ、春の始め。これをもてなす人は月の西より東をさして満がごとく、日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく、徳もまさり人にも愛せられ候なり」
(重須殿女房御返事)

日蓮聖人伝



文永八年(一一七一年)は大早魃で農民は耕作できず、被害が出て、飢え、娘の身売り、赤子の水流し等悲惨な状況であった。極楽寺忍性良観は時の執権北條時宗の命により、六月十八日より雨乞いの祈禱に入った。これを聞いた日蓮は、良観房に使いをだし、「雨乞いの祈禱により七日以内に雨が降つたならば日蓮は自分の法門を捨て、良観上人の弟子となる。しかし若し七日以内に雨が降らなかつたならば、其の時は日蓮の法門に従うべきこと」を伝えた。これを聞いて良観房は烈火の如く怒り、「日蓮を思い知らせるのはこの時」とばかり弟子百二十余人を率

新年を迎えて

新年を迎えると、日本人の多くは寺社へ初詣に出かけます。その総参拝数はなんと九千万人以上のぼります。しかし寺社へ初詣する姿は、自動販売機信仰とも揶揄されます。あたかもコインを入れてジュースが出てくるようなインスタントな底の浅い信仰と云われています。また、自分の願いを神仏に頼むだけで、神仏の教えを実践しない人も多く見られます。ところが人が一番真剣に祈るのは、自分以外のことである!という検証結果があります。例えば、最愛の人が病気になる時、私達は自分のこと以上に祈りを捧げます。「自分はどうかなくてもいい!だから愛する人をなんとか助けて下さい」と。自分以外のことで、一生懸命祈る姿がそこにはあるのです。それで、誰に対して祈りを捧げているのか

メンテイターや番組編集の意図から、偏った誇張し過ぎの報道が目につきます。世の中が複雑になり、マスコミの弊害も潜んでいて真偽不明な情報も溢れる社会で、人の物の見方感じ方は様々で、何を信じて良いか分からないうと悩む人が多くいます。一方で、自分の利己的で独善的な考えに固執して、その考えが反社会的であり非人間的であっても、自分の考えが正しいと、他人や社会を受け付けない人も多く見られます。現代人は健康管理と経済の動向には心を砕いていますが、心の管理が疎かになっているのではないのでしょうか。

「主人公は写真嫌いの詩人で滅多に写真を撮らない。四、五年前に婚約記念に、今は美しい思い出となった当時の恋人との写真だけが残っていた。ところがその写真が去年、ある新聞社から主人公の写真を掲載したいと依頼があり、ちよつとためらったが、その写真を切り離して渡したのだ。実に意外にも、主人公は切り離された彼女だけの



「過眼雲煙」とは、雲や霞がたちまち目の前を通り過ぎるようになり、先入観やわだかまりにとらわれず、物事に執着しないという意味です。類義語に「虚心坦懐」「無欲恬淡」があります。

「主人公は写真嫌いの詩人で滅多に写真を撮らない。四、五年前に婚約記念に、今は美しい思い出となった当時の恋人との写真だけが残っていた。ところがその写真が去年、ある新聞社から主人公の写真を掲載したいと依頼があり、ちよつとためらったが、その写真を切り離して渡したのだ。実に意外にも、主人公は切り離された彼女だけの

お檀家さんご紹介

澤田 章司さん
澤田 章司さんは、澤田歯科医院の三代目です。祖父澤田儀一さんが昭和二年に開業し、二代目は父澤田昌美さん。地域住民からも信頼の厚い当院は、昨年開院九〇周年を迎え、診療所も新設リニューアルしました。現在は章司さんの長女澤田有里さんが四代目院長として、更なる発展が期待されます。

澤田 章司さんより
日本刀脇差しご寄付
澤田 章司さんの父、澤田昌美さんは、刀剣収集の趣味をおもちでした。昨年十月昌美さんの七回忌法要のおり章司さんより澤田家所蔵の脇差し一降りを奉納頂きました。

掲示板

お悩み相談
当寺では、長年に亘り法要や先祖供養などの仏事はもちろんのこと、人生における様々なお悩み相談(人間関係・結婚・出会い・仕事・子育て・引きこもり、登校拒否、自傷行為など)を承っております。最近では、葬儀の生前・事前相談や、お墓の継承問題、婚活相談が増えています。
お一人、ご家族だけで悩むのではなく、相談することが解決への第一歩となります。
お電話でも構いませんのでお気軽にご相談ください。

新規区画販売スタート
夫婦墓の新規販売をスタートします。東向きで大変眺めの良い立地です。一区画の広さは、たしげな墓苑最小の〇.三二㎡。永代使用料・墓石・工事代金含めて四〇万円より(税別)。数に限りがございます。